

第8回日本スポーツグランプリ 受賞者(功績)

1.	<small>かみや</small> 神谷	<small>マサヤス</small> 正保	81歳(男性)	埼玉県	水泳	活動歴: 65年	顕彰対象区分(1)
<p>14歳で水泳をはじめ、65年間現役で活動し続けている。</p> <p>静岡県勤労者水泳競技大会や全国勤労者水泳競技大会(実業団)において優勝を果たすなど活躍した。また、「生涯1,000試合、3,000レース出場」という目標を立て、国際水泳連盟公認マスターズ世界記録突破25回、日本マスターズ水泳協会公認日本新記録252回を樹立するなど、目標達成に向け日々鍛錬を続けている。平成25(2013)年1月時点で、946試合、3,277レースに出場し、その内2,117回の優勝を果たしている。</p>							
2.	<small>シカワ</small> 吉川	<small>ゴウ</small> 五郎	93歳(男性)	埼玉県	サッカー	活動歴: 77年	顕彰対象区分(1)
<p>13歳からサッカーをはじめ、戦時中は軍に所属し、大学サッカー部との交流を続けた。</p> <p>昭和54(1979)年の「第6回関東四十雀サッカー大会」に60歳でFWとして出場して以来、平成6(1994)年の第23回大会まで連続出場を果たすなど所属チームの中心的な存在として活躍した。</p> <p>また、昭和21(1946)年の埼玉県サッカー協会設立や昭和54(1979)年の同協会医事委員会設置に尽力するなど、地元のサッカー組織の整備を通して競技普及にも貢献した。</p> <p>さらに、平成23(2011)年の「プレ埼玉スーパーシニア(O-70)サッカー大会」、翌年の「第1回埼玉スーパーシニア(O-70)サッカー大会」に選手登録するなど、93歳の現在もプレーを続けるための鍛錬を日々続けている。</p>							
3.	<small>ウチ</small> 堀内	<small>ウツ</small> 浩太郎	86歳(男性)	神奈川県	ボート	活動歴: 76年	顕彰対象区分(1)
<p>10歳からボートに親しむことをきっかけに、インターハイや全日本選手権、国民体育大会において優勝を果たすなど、高校、大学、社会人を通じて選手として活躍した。</p> <p>また、ボート理論にも精通し、科学的なトレーニングを導入、日本代表チームでの指導をはじめ、指導者として多数の優秀な選手を育成した。指導の傍ら自身のトレーニングにも取り組み、昭和44(1969)年から平成6(1994)年の全日本実業団選手権に出場、シングルスカルで10回の優勝を果たした。また、シニア世代になってもボート競技を続け、平成22(2010)年の世界マスターズ選手権において優勝を果たした。</p> <p>現在もボート競技を続けており、生涯を通じてボート競技に取り組む姿は、他のボート選手・関係者の尊敬の的となっている。</p>							
4.	<small>ヒガサ</small> 日笠	<small>アツシ</small> 敦	87歳(男性)	兵庫県	<small>バスケットボール、ラグビーフットボール</small>	活動歴: 70年	顕彰対象区分(1)
<p>旧制中学在学中からバスケットボール競技をはじめ、昭和17(1942)年の第13回明治神宮競技大会に出場した。旧制中学卒業後、一時競技から離れるが、勤務先である兵庫県庁のバスケットボールチームに所属し活動を再開する。その後、昭和25(1950)年から昭和32(1957)まで、5大都市大会に8年連続出場し2回優勝、第7～9回、11回の国民体育大会にも出場し、第11回大会では第3位の成績を収めた。</p> <p>また、バスケットボールの傍ら、在職中から現在まで同業種の仲間で作ったラグビーチームに所属し、地元の各種大会に出場している。</p> <p>退職後は、地元の60歳以上の愛好者で作ったバスケットボールのシニアチームに所属し、現在まで定期的に練習会や地域のレディースチームなどとの交流戦を通し、活動を続けている。</p>							
5.	<small>トサ</small> 土佐	<small>アキコ</small> 昭子	80歳(女性)	神奈川県	卓球	活動歴: 68年	顕彰対象区分(1)
<p>12歳で卓球をはじめ、学生時代から卓球に対する志は高く、競技者として68年間にわたり努力、研鑽を重ねてきた。</p> <p>その間、国民体育大会をはじめ全日本卓球選手権大会、5大都市大会、ねんりんピック、全国レディース大会等に出場し数多くの優勝を果たした。</p> <p>特に、世界ベテラン卓球選手権大会には平成8(1996)年から毎回出場し5回の優勝、全日本選手権大会(マスターズの部)では平成14(2002)年から連続県代表となり5回の優勝を成し遂げている。</p> <p>80歳を迎えた今でも、週6日の練習を欠かさず、卓球に打ち込む情熱と競技者としての生活習慣は、他の模範として県内外の卓球愛好者の手本となっている。</p>							

6.	稲田 弘 いねだ ひろ	80歳(男性)	千葉県	トライアスロン	活動歴: 74年	顕彰対象区分(2)
<p>小学生、中学生、高校生では、剣道、陸上競技、器械体操、野球など多数のスポーツに親しみ、大学生時代は山岳部に所属し、登山やトレイルラン、マラソンに励んだ。就職後も、仕事の合間を見つけては登山(日本百名山のうち72峰を登頂)やマラソンを続けてきた。</p> <p>退職後に水泳をはじめ、69歳の時、憧れていた自転車を購入したことをきっかけに、70歳でトライアスロンに初挑戦し完走した。78歳で念願のアイアンマン世界選手権に出場するも途中棄権となったが、これを機会に奮起し、その後開かれた予選会で再度参加資格を得て、見事アイアンマン世界選手権2012の80歳以上の部で完走、コースレコード(15時間38分25秒)で優勝した。</p> <p>現在もトレーニング中心の生活を送り、スイムは週4回、朝4時30分に起床して6時から3~3.5kmを泳ぎ、バイクは150kmのロングライドを行うこともあり、日々の鍛錬を欠かさない。</p>						
7.	松本 弘 まつもと ひろ	76歳(男性)	山梨県	水泳	活動歴: 58年	顕彰対象区分(2)
<p>高校の水泳部入部をきっかけに本格的に水泳はじめ、国民体育大会に多数回出場するなど、県下の強豪選手として一線で活躍した。</p> <p>59歳でマスターズ大会にデビューすると、平成13(2001)年に65歳で25mと50mバタフライで自身初の日本新記録を樹立。その後も日々自己記録の更新のため練習を重ね、平成18(2006)年から平成24(2012)年の間に、世界記録を計30回更新、現在では70歳区分長水路50mバタフライ(31秒49)と75歳区分長水路50mバタフライ(32秒76)、280歳~319歳区分4×100m混合フリーリレー(5分23秒37)の3つの世界記録を保持している。</p>						
8.	守田 満 もりだ みつ	90歳(女性)	熊本県	陸上競技、水泳	活動歴: 58年	顕彰対象区分(2)
<p>学生時代は部活動等がなく、定期的に活動する場がなかったが、昭和29(1954)年、地元で市営プールが新設されたことをきっかけに水泳をはじめ、八代市水泳協会などに所属し、現在まで定期的に活動している。</p> <p>一方、69歳の時に地域住民参加の運動会でリレーメンバーとして初出場した際、45歳の参加者を抜いたことをきっかけに、陸上競技に目覚める。</p> <p>平成6(1994)年に初出場した世界マスターズ(ジャカルタ大会)において、100m・200mで大会記録を樹立。その後もマスターズに出場し日本記録を更新するなど輝かしい成績を残した。特に、平成20(2008)年の長崎マスターズにおいては、100m・200mで共に世界新記録を樹立し女子優秀選手賞に輝いた。現在、女子80~84歳の部200m(40秒78)、女子85~89歳の部100m(19秒83)、200m(45秒65)の3つの世界記録を保持している。</p>						
9.	三浦 雄一郎 みづら ゆういちろう	80歳(男性)	北海道	山岳、スキー	活動歴: 72年	顕彰対象区分(3)
<p>小学校2年生でスキーに接した後、中学生で地元のスキー大会で優勝。高校生では全日本スキー選手権滑降競技で入賞する。</p> <p>昭和37(1962)年に世界プロスキーヤー選手権に参加し、その後、プロスキーヤーとして活動し、世界7大陸最高峰全峰からの滑降などを成功している。</p> <p>70歳でエベレスト登頂を果たすという目標を立て、外出時には常に両足に重りをつけ、20kg近いリュックを常に背負うというトレーニングを行い、平成15(2003)年5月22日、世界最高峰のエベレストに当時の世界最高齢となる70歳7か月での登頂を果たす。</p> <p>5年後の平成20(2008)年再度75歳で登頂に成功。さらに、平成25(2013)年5月23日、80歳で3度目のエベレスト登頂に成功し、最高齢登頂者となった。</p>						

注) 年齢:平成25年9月29日時点